

# 消費動向調査

## 第2回「山形県家計消費動向調査」(概要※)

※詳細は調査レポート (<http://www.sfsi.co.jp/>) をご覧ください。

- 調査の目的** 県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 郵送調査専用モニターを利用したアンケート調査
- 調査の対象者** 県内に在住する勤労者(サラリーマン)世帯(世帯人数2名以上) モニター世帯数：417世帯\*  
※有効回答数：393世帯(回答率：94.2%)
- 調査期間** 平成18年12月1日(金)～15日(金)

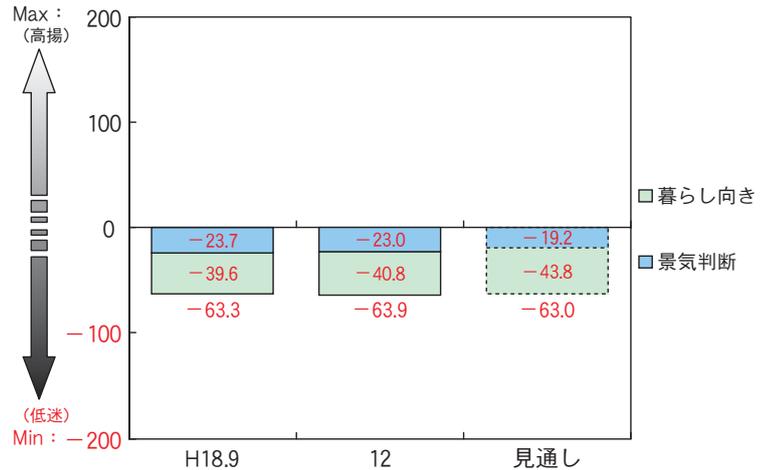
### 消費指数

消費指数は▲63.9

～消費マインドは依然として低迷気味～

消費指数の内訳は景気判断指数が▲23.0、暮らし向き指数が▲40.8となっており、景気判断指数に比べて暮らし向き指数が17.8ポイントも低く、暮らし向きは良くなっていないと感じている世帯が多かった。また、前回調査時点と比べて、景気判断指数と暮らし向き指数との間のギャップも1.9ポイント拡大した。

なお、今後の見通しについては、消費指数が0.9ポイント改善し▲63.0となるものの、暮らし向き指数が悪化予想となっていることから、消費マインドも低調に推移すると予想される。



#### 【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

①景気判断指数 (指数レンジ100～▲100) :

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」に関する設問の回答結果から作成されます。

②暮らし向き指数 (指数レンジ100～▲100) :

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

(単位：円)

		H18. 9月	12月	前月差	
今月の家計簿	入	①定期収入	266,332	264,881	-1,451
		②臨時収入	52,389	37,868	-14,521
		1. 世帯主の収入	318,721	302,749	-15,972
		①他の人員の定期収入	118,829	116,552	-2,277
		②他の人員の臨時収入	18,258	14,930	-3,328
		2. 他の人員の収入	137,087	131,482	-5,605
	3. その他収入	20,452	25,851	5,399	
	1. 収入計	476,260	460,082	-16,178	
	出	1. 食費	55,472	53,190	-2,282
		2. 住居費	46,395	47,857	1,462
		3. 水道・光熱費	38,821	24,100	-14,721
		4. 通信・交通費	38,440	28,766	-9,674
5. 被服・装飾費		29,978	13,844	-16,134	
6. 各種保険料の支払い		24,895	39,961	15,066	
7. 医療・介護費		24,611	12,403	-12,208	
8. 育児・教育費		23,065	27,414	4,349	
9. 仕送り		15,562	11,537	-4,025	
10. 小遣い		12,245	39,948	27,703	
11. ローン・月賦の支払い		10,984	18,611	7,627	
12. その他支出		9,369	38,341	28,972	
II. 支出計	329,837	355,972	26,135		
平均消費性向 (支出計÷収入計×100)		69.3%	77.4%	8.1%	

<平均的な世帯像>

世帯主：48.0歳

世帯人員：3.9人

収入の担い手：1.9人



## ■ 景気判断

**県内景気** 現状認識は「悪い」(17.7%)と「どちらかと言えば悪い」(27.2%)が44.9%を占めており、前回調査時点と比べて県内の景気に対して暗い認識を持っている世帯が増えた。ただ、今後の見通しについては「良くなる」(1.8%)と「どちらかと言えば良くなる」(19.2%)と考えている世帯の割合が増え、21.0%の世帯が良くなると予想している。

**雇用環境** 現状認識は「良い」(2.1%)と「どちらかと言えば良い」(23.9%)が26.0%を占めているものの、「悪い」(16.7%)と「どちらかと言えば悪い」(24.7%)がそれを上回っており、雇用へ不安感を抱いている世帯が多かった。また、今後の見通しについては、やや不安感が和らぐものの、依然として「悪くなる」と考えている世帯が多い。

**日用品価格(物価)** 現状認識は「上がった」(19.8%)と「どちらかと言えば上がった」(32.6%)が52.4%を占めており、日用品価格が上がっていると感じている世帯が過半数を占めた。ただ、前回調査時点と比べると、日用品価格が上がっていると感じている世帯の割合は11.4%減っており、いくぶん落ち着きを取り戻しつつある。

## ■ 暮らし向き判断

**世帯(勤労)収入** 現状認識は「減った」(33.9%)と「どちらかと言えば減った」(21.2%)が55.1%を占めており、収入が減ったと感じている世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても悲観的な予想が趨勢を占めており、収入が「減る」と考えている世帯の割合が増えている。

**資産価値** 現状認識は「減った」(40.4%)と「どちらかと言えば減った」(20.7%)が61.1%を占めており、資産価値は減ったと感じている世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても悲観的な予想が趨勢を占めており、資産価値が減ると考えている世帯の割合が増えている。

**お金の使い方** 現状認識は「控えている」(30.6%)と「どちらかと言えば控えている」(30.9%)が61.5%を占めており、お金を使うことを控えているという世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても「控える」という世帯が多く、節約思考の世帯が多くなっている。

**生活のゆとり** 現状認識は「厳しい」(45.9%)と「どちらかと言えば厳しい」(23.0%)が68.9%を占めており、生活が厳しいと感じている世帯が過半数を占めている。ただ、今後の見通しについては、厳しいと見込んでいる世帯は多いものの、いくぶん明るさを取り戻す見込み。

